

## 令和2年度シマフクロウ傷病個体収容結果

表1 平成6～令和2年度シマフクロウ傷病個体収容結果（令和3年3月31日時点）

年度	交通事故	列車事故	感電事故	羅網	溺死	捕食・襲撃	標識調査時 収容	不明	その他	(件)		(羽)
										死体	生体	
平成6				1			2	2		2	3	5
7	1						2		2	3	2	5
8							2	1		1	2	3
9	2		1		1	1	2		1	4	4	8
10	2			2						1	3	4
11	1			1	1		1	1		4	1	5
12	1			1			1				3	3
13	3					1		2		5	1	6
14			1	3			1	1		3	3	6
15	1								1	2		2
16	1		1	1	1	1		4		9		9
17	2						1	1	1	2	3	5
18			1			2			1	4		4
19	2		2	2		1				3	4	7
20	1		1	1	1		2			5	1	6
21	2			1					1	3	1	4
22	3		2			2			1	4	4	8
23	1				2	1	1	2	3	5	5	10
24			1		2	1		2		6		6
25	1			1		2	2	2	1	6	3	9
26	1					1		1	1	3	1	4
27	3					1	2			5	1	6
28			1			1	1	2		5		5
29									1	1		1
30	3	1			1				3	5	2	7
令和元	3	1	1	2			2	1		8	2	10
2	1	2	1	1	1	2	1			8	1	9
計	35	4	13	17	10	18	23	22	16	107	50	157

※1 表中のデータはシマフクロウ保護増殖事業計画が策定された翌年の平成6年度からとした。

※2 各原因別の収容件数の合計が収容個体数を上回る年があるが、これは複数の原因が考えられる収容個体があるため。

平成30年度：溺死とその他が1羽

※3 「標識調査時収容」は、標識調査時に生育に異常が見られた個体又は死体を収容したもの。ただし、キツネ等他の動物に襲われたと考えられるものは捕食・襲撃に分類した。

※4 「その他」としては、栄養不良、トラバサミ、電柱の金具に引っかかる、集合煙突内に侵入、他のシマフクロウによる襲撃、感染症疑い、内科疾患などがある。

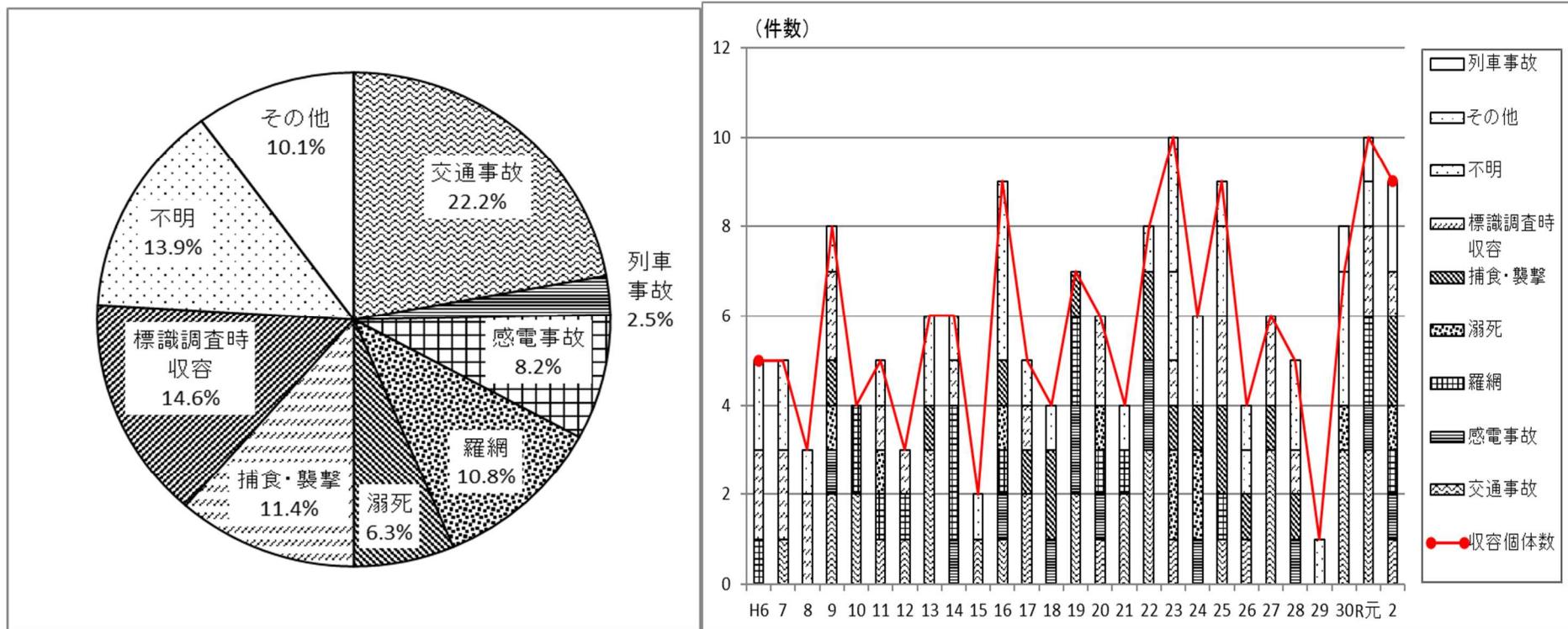


図1 シマフクロウ収容原因別割合 (H6-R2年度)

図2 シマフクロウ年度別収容件数 (H6-R2年度)

※各原因別の収容件数の合計が収容個体数を上回る年があるが、これは複数の原因が考えられる収容個体があるため。